

1. 草取りボランティア 2. 広幡田んぼの学校 3. ぼくまち 4. アロマ&ハーブ

★「たすけあい」の輪 草取りボランティア

(主催) 浜松市西地区社会福祉協議会
家事支援部、
小楠 達司さん (人づくり推進員)



◆地域の取組紹介

浜松市西地区社会福祉協議会で先代会長を務めた小楠達司さん(人づくり推進員)は、家事支援部の活動として高齢者などのお宅での草取りボランティアを主導しています。浜松市立西部中学校の生徒有志の協力を得て、世代間の交流を生みながら地域を活性化する活動が行われています。



▶笑顔の依頼主さん(左)と
小楠推進員(真ん中)

◇「福祉の心」で住みよい地域に

浜松市西地区社会福祉協議会は、全国社会福祉大会でも表彰されるほど積極的に地域のために活動しています。西地区社協には「シニアふれあい部」や「子ども育成部」など、6つの部があり、それぞれの分野で様々な事業を行っています。その内の「家事支援部」では、高齢者などからの依頼に応じ、草取りやゴミ出しなどのボランティア活動を行っています。

6月に行われた草取りの活動に何うと、西部中学校の3年生が5人、ボランティアとして参加していました。活動を主導している小楠推進員は、活動を始める前に「ボランティアをすると心が豊かになる。みなさんには、徳のある人になってほしい」と語りました。依頼主のお宅の庭で草取り作業をしている間も、ボランティアの中学生たちと、家で育てている野菜の話や高校受験の事情などについて楽しく会話が弾んでいました。

1時間ほどの作業でさっぱりとした庭を見て、依頼主も喜んでいらっしゃいました。お礼とともに伝えられた、「人が喜ぶことをみんながすると世界はよくなる」というお話は、社協の取組を表す言葉そのものようでした。ボランティア活動を通して、世代間のコミュニケーションと地域での交流が生まれ、参加した中学生たちの成長にもつながっています。

社会福祉協議会とは

市町村社会福祉協議会は、社会福祉法第109条において、**地域福祉の推進を図ることを目的とする団体**とされ、行う事業は以下のように示されています。

- 一 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- 二 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助
- 三 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成
- 四 前三号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

★ごはんは笑顔

広幡田んぼの学校

(運営) 海老名 正和さん (藤枝市農業委員会会長)、
竹下 蓉子さん (人づくり推進員)、
渋谷 香里さん (藤枝市農業振興課)、
ボランティアの皆さん



藤枝市立広幡小学校・中学校のコミュニティ・スクールでディレクターを務めている竹下蓉子推進員は、令和5年度から「田んぼの学校」を始めました。藤枝市農業委員会会長をされている海老名さんから田んぼの提供と指導をいただき、子どもたちを集めて田植えや稲刈りの体験活動を行っています。

◇田植えをしてみよう！

6月9日の日曜日の朝、集合場所には、たくさんの親子連れが集まりました。実は令和5年度は、大雨で田植えが中止になってしまったため、稲刈りからの実施でした。今年度は「広幡田んぼの学校」にとって初めての田植え体験です。子どもたちが田植えを体験することができる貴重な機会ということで、地元だけでなく、市外からの参加もありました。運営には、藤枝市の職員や、小中学校の教頭先生・校長先生、見守りボランティアの方々など、多くの支援者が集まりました。

田んぼの提供と指導・管理を務める海老名さんの説明を聞き、苗を手にしてわくわくの子どもたち。田んぼに入る最初の一步は恐る恐るといった様子でしたが、すぐに「冷たい!」「気持ちいい!」「カエルがいる!」など、元気な声が飛び交いました。奈良時代の条里制のもとに作られたという大きな田んぼで、お手製のロープに沿って『にこまる』という品種の苗をまっすぐに植えることができました。



▲竹下推進員(左)と海老名さん(右)



▶にぎやかな田植え体験です



▶みんな我先にと、予定より早く植え終わりました

◇ごはんを食べてみよう！

田植え体験を終え、泥んこになった服を着替えて手や体を洗ったり、海老名さんの田んぼから水槽に入れられたホウネンエビの観察をしている間に、渋谷さんが炊きたてのごはんを用意してくださいました。海老名さんと竹下推進員は、ごはんをおにぎりにして、たくさん噛んで食べるようにと子どもたちに配りました。ごはんは噛んでいるとだんだん甘さを感じることができます。これも活動を通して実施している食育のひとつです。食べたごはんは海老名さんが無農薬で大切に育てた『にこまる』で、植えた苗と同じ品種です。秋の収穫がさらに楽しみになりました。

また、このお米を使って作られたお酒の紹介や、藤枝市が取り組む「ゼロから農業」(農業を始めたい方に土地を貸す事業)の案内、おにぎりのお供に大人気だったメンマの手作り体験教室の紹介などが行われました。田んぼの学校は子どもたちが楽しみながら農業や食に興味を持つきっかけの場となっています。



▲あつあつのごはん!

★「こどもによる こどものための まちづくり」 KIDS TOWN ぼくらのまちのはら

(運営) まきのはらキッズ夢サポーター
代表 今野 剛也さん (人づくり推進員)、
ボランティアの皆さん



◀中段左端が今野推進員

牧之原市政 10 周年を記念して平成 27 年に始まった「ぼくらのまちのはら」(通称:ぼくまち)は、今年で 10 年目を迎えました。牧之原市の未来を担う子どもたちを育てるために始められたこの事業では、相良総合センターい〜らにて、子どもたちが、子どもたちのためのまち、「まちのはら」をつくります。

◇子どもたちだけのまち！

今年まちをつかった「こどもスタッフ」は、事前に応募をした牧之原市内の小学校 3～6 年生 37 人です。学校や学年もばらばらのメンバーで 3、4 人のチームをつくりました。「まちのはら」にはお店をはじめ、市役所や銀行、学校、税務署、ハローワークがあり、市長もいます。3 回のミーティングの中で各チームが取り扱う商品や市長などの役割を決め、職業体験をして接客や商品の扱い方などを学び、準備万端で「まちのはら」をオープンしました。



▲放送局では BGM を流し、落としもの案内、依頼があったお店の宣伝などを放送しました

まちには、市役所のほかに、チュロスなどの飲食店や、アクセサリなどの物販、釣りや砲丸投げが体験できる店など、子どもたちのアイデアで魅力的なお店がたくさん並びました。当日参加の小中学生は、市役所で手続きをすることで「ぼくまち市民」として参加できます。商品やサービスを購入するために必要な通貨「だら〜」は、ハローワークでアルバイト先を探して働くと稼ぐことができます。なんと、収入の 10% を税金として税務署に納める制度まであります。現実の社会がぎゅっと詰まった「まちのはら」で、子どもたちは楽しみながら社会の仕組みを学ぶことができます。



◀大忙しのお店の様子

▼アルバイト 20 分で額面 300 だら〜です



ぼくまち市長の政策:
「おそろいの缶バッジ」▶



◇大人や地域とのつながり

ぼくまちは子どもたちのまちですが、大勢の大人が子どもたちの活動を支えています。およそ 20 人の「まきのはらキッズ夢サポーター」(代表:今野剛也推進員)が運営を行い、中学生～大学生のボランティアも 30 人ほど参加しています。小学生の頃に「こどもスタッフ」をした方が、運営側で参加するなど、企画への愛情が確実に育まれており、牧之原の未来を担う子どもたちが育っている様子が伺えます。

また、職業体験では牧之原市役所やスーパーなどを訪問し、実際の仕事について大人から学びました。ぼくまち市長選挙には本物の投票箱が使われ、お店の機材も商工会や社会福祉協議会が提供するなど、地域とも深く繋がっています。

一般の大人は、商品の購入などはできませんが、「ツアー」でまちの様子を見ることが出来ます。保護者の方など、子どもたちを応援するたくさんの大人でツアーも大盛況でした。子どもだけでなく大人も笑顔になる素敵なまちになりました。

★香りを味方につけよう！ アロマ&ハーブ体験講座

(主催) 浜松市可美協働センター
岡本 真理さん (人づくり推進員)



◀「アロマジュエリー石けん」の
説明をする岡本推進員

浜松市の岡本真理さん(人づくり推進員)は、小学校や協働センターなどで「アロマ&ハーブ体験講座」の講師を務めています。今回は、浜松市可美協働センターの夏休み子ども講座で、石けんづくりを行いました。

◇ハーブに触れる

7月31日に行われた講座には、7人の子どもたちが参加しました。以前は親子向けの講座を開催していたそうですが、コロナ禍以降規模を縮小し、現在は子どもだけを対象にしています。扱い方に注意が必要な精油や、湯煎で溶かした石けんの材料なども使用するので、丁寧な注意喚起から講座は始まりました。子どもたちは講座が始まる前から机に並べられた道具や材料を見てわくわくしている様子でしたが、注意点を真剣に聞き、精油の特性や楽しみ方について学びました。

はじめに、朝摘みのレモングラスやラベンダー、ティーツリーなど様々なハーブの葉が配られ、名前や効能、用途などについて解説がありました。子どもたちはそれぞれの葉を実際に触り、香りを嗅ぎ、なんの匂いに似ているか、どれが好きかなど、思い思いの感想を述べていました。

▶完成イメージのお手本です
宝石風でかわいい！



◇きれいで香りのよい石けん

この日の講座では石けん2種類と虫よけスプレーづくりが行われました。虫よけスプレーは、ハーブが原料になっている精油などを用いて作りました。香りを感じることで、実際に触った植物から作られたことを改めて体感できました。

石けんは、①ラベンダー精油が入っているきれいな紫色の石けんのかけらを組み上げ、宝石の結晶のように好きな形に固めるものと、②溶かした液状の石けんに好みの精油と天然着色料を混ぜ、マリーゴールドのドライフラワーを入れて宝石の形のシリコン型で固める2種類を作りました。参加者のほとんどが初対面同士でしたが、型から取り外す時などに自然と協力し合ったり、完成品をラッピングする時もお互いに褒め合うなど、講座を通して仲良くなっている姿が印象的でした。

▶好みのラッピング素材選びに
大盛り上がりでした

